帝京科学大学教員

2022

おすすめの本

CONTENTS

現代を生きる指針 …… 1
永沼 充 先生 （学校教育学科）
市ヶ谷 武生 先生 （柔道整復学科）
田村 昌大 先生 （総合教育センター）
鈴木 貴史 先生 （教職センター）

自分らしく生きる …… 4
福田 八重 先生 （教職センター）
板橋 直人 先生 （看護学科）
持田 尚 先生 （学校教育学科）
髙田 由基 先生 （学校教育学科）
芹田 透 先生 （東京理学療法学科）

こころ …… 7
渡邊 利明 先生 （医学教育センター）
五味 雅大 先生 （理学療法学科）
小山 優美子 先生 （東京理学療法学科）
小黒 正幸 先生 （東京柔道整復学科）

知ることから始まる …… 10
三木 良子 先生 （医療福祉学科）
一色 哲 先生 （医療福祉学科）

身の回りの科学 …… 12
渡辺 令子 先生 （幼児保育学科）
今野 晃嗣 先生 （アニマルサイエンス学科）
石井 あゆみ 先生 （自然環境学科）
深山 俊治 先生 （アニマルサイエンス学科）
松本 ディオゴけんじ 先生 （総合教育センター）
杉山 渉 先生 （東京柔道整復学科）

新たな視点 …… 16
鈴木 貴史 先生 （教職センター）
前嶋 深雪 先生 （こども学科）
リングホーファー 萌奈美 先生（アニマルサイエンス学科）
鈴木 幹夫 先生 （作業療法学科）

物語から広がる世界 …… 19
塚田 絵里子 先生 （東京理学療法学科）
戸澤 あきつ 先生 （アニマルサイエンス学科）
安部 久美 先生 （幼児保育学科）
前嶋 深雪 先生 （こども学科）
渡邊 利明 先生 （医学教育センター）

手記をよむ …… 22
西川 翔 先生 （生命科学科）
昇 寛 先生 （柔道整復学科）
稲川 健太郎 先生 （教職センター）

科学的思考 …… 24
本間 信生 先生 （作業療法学科）
米田 巌根 先生 （学校教育学科）
髙田 由基 先生 （学校教育学科）

教養を楽しく …… 26
仲光 秀城 先生 （教職センター）
金田 拓 先生 （学校教育学科）
小堀 馨子 先生 （総合教育センター）

法医学 …… 28
杉山 渉 先生 （東京柔道整復学科）

表紙の写真/東京西図書館　裏表紙の写真/千住図書館

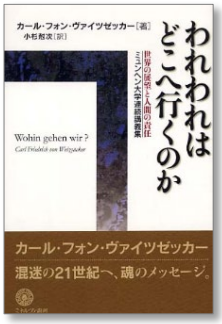
現代を生きる指針

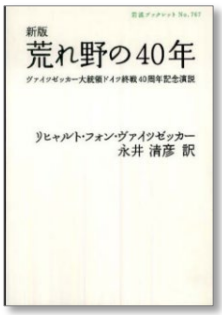
学校教育学科
永沼 充 先生

『われわれはどこへ行くのか 世界の展望と人間の責任』
カール・フォン・ヴァイツゼッカー著 小杉尅次訳
ミネルヴァ書房 【請求記号：304/W55】

『荒れ野の 40 年 ヴァイツゼッカー大統領ドイツ終戦 40 周年記念演説』
リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー述 永井清彦訳
岩波書店 【請求記号：081/I95/767】

人間は共生を本質的属性とする存在である





カール・フォン・ヴァイツゼッカーはハイゼンベルグやボーアに学んだ原子核物理学者であり、哲学者、神学者でもある。本書は彼の最終講義ともいえるミュンヘン大学での 4 週間にわたる講義の書き起こしである。4 回の講義はそれぞれ「政治の責任」「宗教の役割」「学問の貢献」「なすべきことは何か」を副題として語られている。人間を「共生を本質的属性とする生命個体」と位置づけ、戦争と平和、貧困と裕福、人間と自然、民主主義の視点から、未来に何が期待できるか、何をすべきかについて語る。1997 年 1 月から 2 月にかけての講義であるが、四半世紀経った今でも色あせない確かさがある。小説のように読む本ではないが、秋の夜長に毎週一講ずつじっくり読んでみてはどうか。

カールは統一前ドイツの第 3 代、第 5 代の大統領に懇願されるほどの人物であった。16 年間ドイツを引っ張った名宰相アンゲラ・メルケルも理論物理学者である。物理学は政治とかけ離れた世界であるが、ものの理（ことわり）を追求するという点で、信念を持ちブレないことが強みなのかもしれない。

カールの代わりに第 6 代（統一ドイツの初代）大統領となったのは末の弟リヒャルトである。彼の『荒れ野の 40 年』（終戦 40 周年記念演説）も併せて読みたい。1985 年 5 月 8 日の連邦議会における 43 分間の演説の書き起こしである。大きなゼスチャーもなく、淡々と語りかける口調は聞く者を魅きつける。「罪の有無、老幼いずれを問わず、われわれ全員が過去を引き受けねばならない」、「過去に目を閉ざすものは結局のところ現在にも盲目となる」と訴え、最後に「及ぶかぎり真実を直視しようではありませんか」と結んで、ドイツの戦争責任に真摯に向き合っている。

ロシア軍による一方的なウクライナ侵攻が続き世界が混沌としている今、二人のヴァイツゼッカーは何というだろうか？

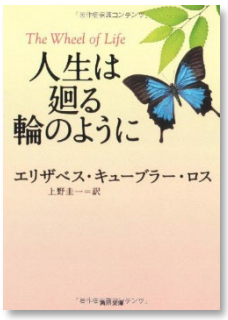
（前ページからつづき）

現代を生きる指針

人生の困難から何を学ぶのか？

柔道整復学科
市ヶ谷 武生 先生

『人生は廻る輪のように』
エリザベス・キューブラー・ロス著　上野圭一訳
角川書店　【請求記号：289.3/Ku11】



「生命の尊厳を深く学ぶ」という当学の建学の精神からもお勧めする本です。生涯を通じて「生と死」を洞察した女性精神科医の自伝です。著者の生き方や主張の評価は分かれますが、先入観を持たずに最後まで読んでから下してほしいと思う内容です。

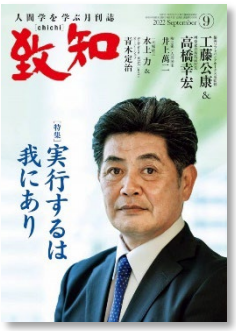
死にゆく人たちに全身全霊で寄り添う多くのエピソードは一読の価値があります。ページをめくるたびに、驚き、笑い、疑い、時に目が潤み、人生の意味とその奥深さを目の当たりにして、しばしば沈黙します。「毎日を精一杯に後悔なく生きることが、より良く死ぬために必要である」と多くの死にゆく人々が教えてくれますが、それを証明するかのごとき著者の生き方にも驚かされます。

現代において科学的思考は絶対的に必要ですが、科学的にも分からないことがあるという寛容で謙虚な思考も同じように必要だと認識できる内容です。

総合教育センター
田村 昌大 先生

人生や人間力の研鑽のヒントを与えてくれる月刊誌

『致知』
致知出版社　千住【雑誌架】



私が紹介したい一冊は月刊誌ではありますが、『致知』という雑誌です。

『致知』との出会いは、大学時代でした。研究室を訪ねた際に机上に置かれていた表紙がスポーツ選手でしたので手に取って読むと、成功や苦労体験が詳細に述べられており、とても勉強になったことが契機となりました。

それ以降、特に 30 歳を過ぎてからは、毎月のように購読し、本誌の大きなテーマである「人間学」を様々な大企業の経営者や歴史的偉人や賢人、スポーツに大きな足跡を残した選手や指導者の哲学から学び、自問自答しながら生活する人生の参考書となっています。

表紙からは堅苦しく年齢が高い人が読んでいそうなイメージがあると思われますが、その通りかもしれません（笑）。しかし、ページを開けば年齢関係なく、皆さんの進みたい業種で活躍できるヒントや指針が数多く詰まっているものと考えます。

ちなみに、本誌のファンは多く、大企業や大学や高校のスポーツ強豪校でも自己研鑽（けんさん）プログラムの一環としても採用されています。

月刊誌なので、図書館で興味の湧くテーマや表紙から一読してみてください。

言葉から国際情勢を読み解く力を身につける

教職センター
鈴木 貴史 先生

『戦争プロパガンダ 10 の法則』

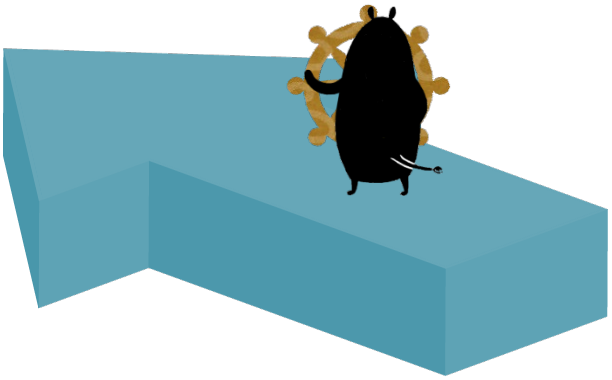
アンヌ・モレリ著　永田千奈訳　草思社　【請求記号：391.6/Mo43】

ロシア、ウクライナ情勢が泥沼化しています（7月末時点）。私たち多くの日本人はメディアを通してこの戦争が悪の権力者によって引き起こされた「やむを得ない戦争」であり、悪に立ち向かう「正義の戦争」だと信じ込まされています。しかし、この世に「やむを得ない戦争」「正義の戦争」なんてあるのでしょうか。

この本は、為政者がプロパガンダ（政治的意図をもつ宣伝）を活用していかに戦争を正当化してきたか、その常套句（じょうとうく）を集めており秀逸です。その内容は説明せずとも目次の項目を例示するだけで十分でしょう。

第1章「われわれは戦争をしたくない」
第2章「しかし敵側が一方的に戦争を望んだ」
第3章「敵のリーダーは悪魔のような人間だ」
（中略）
第10章「この正義に疑問を投げかける者は裏切り者である」

いかがでしょうか。皆さんはロシア、ウクライナどちらの大統領の言葉としてイメージしたでしょうか。いつの時代も正義を振りかざす為政者や、中立を装うメディアのプロパガンダによって人類は繰り返し悲惨な戦争に引きずり込まれてきたのです。言語教育に携わる者として大学生に対する私の願いは、言葉から国際情勢を正確に読み解く力を身につけ、平和な社会を実現する担い手となって欲しいということです。



自分らしく生きる

教職センター
福田 八重 先生

「もっている私」も、きっと大丈夫。

『自己肯定感って、なんやろう?』
高垣忠一郎文　山田喜代春版画
かもがわ出版　【請求記号：371.42/Ta29】

もっている私。「障害をもつ」と言ってはいけないと大人の人が言う。「障害がある」と現象面だけを言えと。でも、「私はいじめによる心的外傷後ストレス障害をもっています」。悔しいことにいじめられた「出来事」や「その時の傷つき、傷によって抱えたその後の困難」は、私の身体の中や人生からは消えません。ただし、そのことを「人生の中の一つの出来事」として捉えられるようになり、小さなポシェットを抱えるくらいな感じでもって歩けるようになって初めて回復したと考えることができます。

高垣忠一郎さんは私と同じ高知県出身の大好きな研究者です。臨床心理学者で、カウンセラーでもあります。「自己肯定感」という言葉を早くから使っていました。いまは、この言葉があふれて、とにかく「ところさがし」「ええとこみつけること」かのように使用されます。しかし、それは、ときに、強迫観念になり、自己否認にさえつながります。

高垣さんは言います。「私らはみんな生きてます。いろんな『弱点』『ダメなところ』を背負って生きてます。」「背負いながらも一生懸命にけなげに生きてはる。その姿に共感しますなぁ。」「そんなもんないほうがイイんです。でも背負ってても、ええんです。ないほうがイイもん背負って生きとるさかいに」しんどい、つらい。「それを背負って一生懸命生きてはることが健気ですねん。値打ちありますねん。せやからエエんですなぁ。」それに気づいたら、自分がいとおしくなる。一生懸命生きていることに免じて、自分を赦せる。「こんな自分でもエエねんなあ」と。それが「自分が自分であって大丈夫」ですねん。

「自分とそんなふうに向き合えるようになったら、他人様ともそんなふうに向き合えますねん。」共感したりされたりしながら、「自分が自分であって大丈夫」と皆が思えたら。「もっている私」もきっと大丈夫。歩きだせる。

看護学科
板橋 直人 先生

全ての悩みは対人関係にある？

『嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え』
岸見一郎ほか著　ダイヤモンド社　【請求記号：146.1/Ki58】

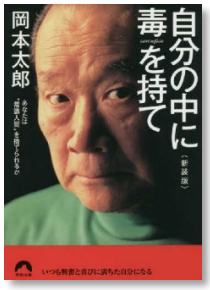
社会生活する上で誰もが一度は悩むことは、人間関係についてだろうと思います。その中には、人に嫌われたくないと考えて、自分の意見を言えず周りの意見に合わせてしまう人は少なくないはずです。他者と自分を比較して「自分もあーなれたらいいのに…」「あの人みたいにできない自分はダメだなぁー」と劣等感を抱き、自己嫌悪に陥ることはありませんか？

この『嫌われる勇気』は、悩みを抱える青年とアドラー心理学を習得した哲人との対話形式で話が展開していきます。その話の内容は多くの人が抱える悩みに対して、具体的な答えを示しながら、今すぐに実践できる考え方が多く提示されています。また、本書では具体的な場面を交えているためさらに、理解しやすく共感できるものも少なくありません。

考えに至るプロセスは、人ぞれぞれです。それが自分に合っているものか、違うものかを決めるものでもありません。自分を見つめて振り返りながら、考え方の引き出しを増やすつもりで気楽に読んでみてはいかがでしょうか。

学校教育学科
持田 尚 先生

自ら流れているようで、実は流されている人生になっていないか



『自分の中に毒を持て あなたは"常識人間"を捨てられるか』
岡本太郎著　青春出版社　【請求記号：159/O42】

「芸術は爆発だ！」というインパクトのあるフレーズ。一時期お茶の間の人気者としても活躍された日本の芸術家、岡本太郎氏(1911-1996)の言葉である。岡本氏を知らない皆さんは一度 YouTube で検索し映像を見てほしい。個性的なキャラクターで、変わった芸術家というイメージをもつかもしれない。しかしながら、とてもパワフルな人物であることが伝わってくるだろう。代表作の一つである「太陽の塔」からもなんだか不思議なエネルギーを感じてしまうかもしれない。

そんな岡本氏が晩年書き下ろしたこの本は、とても感情的で情緒的であり、読んだ私をとても元気にしてくれた。「カッコよく生きようとするのは自分自身に甘えているに過ぎない」、「結果が悪くても、自分は筋を貫いたんだと思えばこれほど爽やかなことはない。人生というのはそういう厳しさをもって生きるから面白いんだ」。コロナ禍での閉塞感を特に感じる今だからこそ岡本太郎の人生論にぜひ触れてみるとよい。

（前ページからつづき）

自分らしく生きる

学校教育学科
髙田 由基 先生

とにかく明るい 福士加代子の素顔

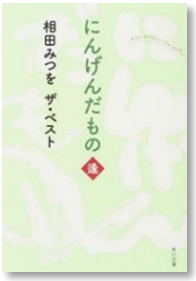
『福士加代子』
福士加代子著　いろは出版　【請求記号：782.3/F83】

2004 アテネ、2008 北京、2012 ロンドン、2016 リオデジャネイロとオリンピック 4 大会連続出場、世界陸上 5 回出場するなど日本女子長距離の第一人者として 20 年以上活躍してきた福士加代子さん。本人の口調そのままに生い立ちや競技人生がつづられています。

今年 5 月、帝京科学大学に来てくださった際、かかわる全ての人に明るく優しく、そして丁寧に接する姿に、福士さんがたくさんの人から愛される理由がよく分かりました。紆余曲折（うよきょくせつ）、決していいことばかりの競技人生ではなかったけれど、たくさんの人に元気を与え、たくさんの人から元気をもらって邁進してきた福士加代子さんの素顔が書かれている『福士加代子』楽しみながら読んでみてください。

東京理学療法学科
芹田 透 先生

そのままでいいがな…



『にんげんだもの　逢　相田みつをザ・ベスト』
『にんげんだもの　道　相田みつをザ・ベスト』
相田みつを著　角川書店　【請求記号：728.216/A24】

SNS の世界は華やかです。

「私はこうやって成功しました～」「私の毎日はとても充実しています～」「私はこんなに魅力的です～」

キラキラして、まばゆい言葉があふれています。

そんな人達の発信を受け取ると、なんて自分の人生はつまらないのだろうと、少し落ち込んでしまいます。

もっとお金を稼ぎたい。もっと明るい未来だけをみていたい。もっと素晴らしい人間になりたい。到底今の自分を受け入れることができず、今の自分を否定し、まだ見ぬ理想の自分を頭の中で想像します。

自己啓発本に書かれていることを実践しても三日坊主。また自分の事を嫌いになるこの繰り返し。

そんな簡単に自分を変えることはできませんよね。

そんなとき、著者の相田みつをさんは、静かに優しく語りかけてくれます。

コンプレックスに苦しめられたって、自己肯定感が低くたって、ネガティブだって、そのままでいいがな…。

過去を後悔したって、人見知りだって、落ち込んだって、弱音を吐いて泣いたって、ただ生きているだけでいいがな…。

「だって、人間だもの…」

こころ

＜心＞をみる、
診る、看る・・・

医学教育センター
渡邊 利明 先生

『ビートルズを知らない子どもたちへ』

きたやまおさむ著　アルテスパブリッシング　【請求記号：764.7/Ki74】

昨年度ご紹介した、ご存じ北山修先生は現白鷗大学学長。京都府立医大在学中より「フォーク・クルセダーズ」でもミュージシャンとしても知られた精神科医師・研究者（前精神分析学会会長）。ヒト深層心理の「二重人格性」を「ビートルズにおけるポールマッカートニーとジョンレノン」に代表される音楽の二重構造から分析し、日本のフォーク世代からニューミュージック世代に至る変遷との比較から「日本人における深層心理の二重構造」をひもとく。“ウソとホントの自己管理”に代表される「のたうち回るほど現代人が悩まされる＜こころの二重構造＞」を解消するためには“葛藤を自分自身で理解して”自分自身のこととして「モラトリアム人間としてのサバイバル」を行うことが必要とあらためて戦いを促す。～本文より：私は管理社会をしたたかに外から眺めたことのある「登校拒否児」や「ひきこもり」から、創造的な管理者としてのドロップインする人が出てくることを期待する。～・・The rest is up to you.（あとは君次第だぜ）

フロイト分析からみた日本人の「心の台本」を、現代のマスコミを深く体験した先生が特別な思いを込めて現代の患者に接する、この本は「人生について考え、自ら意味を与えて生きていこう」という北山先生の心が伝わります。

（前ページからつづき）

こころ

理学療法学科
五味 雅大 先生

現代社会を生き抜く心構えを学ぶ

『宇宙飛行士に学ぶ心の鍛え方』
古川聡著　マイナビ　【請求記号：538.9/F93】

あらゆる極限状態におけるストレスに耐え、職務を全うする究極の職業である宇宙飛行士。そんな過酷な環境の中においても冷静に、そして的確に任務を全うする宇宙飛行士がどのようにして、そのリスクやストレスに打ち勝つのか。また、想定外の事態に対応するために、目の前の現実をどう受け止め、考え、対処しているのか、などが本書には紹介されています。

宇宙飛行士は特殊な職業のため、私たちには参考にはならないだろうと思うかもしれません。しかし、その内容は様々なストレスに満ち溢(あふ)れている私たちの生活にも、十分置き換えることができるものです。

本書は 2013 年に出版されたものですが、その内容は今まさに私たちが直面しているストレスやリスクへの対処方法が記載されています。新型コロナウイルスの感染が始まり、私たちの生活は一変しました。まだまだ不測の事態も起きている今日です。将来に向けた大切な時間を過ごす大学生時代に、ぜひ心の鍛え方を学んでみてください。

東京理学療法学科
小山 優美子 先生

怒りは猛毒
―ブッダの教えに学ぶ アンガーマネジメント―

『怒らないこと』
アルボムッレ・スマナサーラ著　大和書房　【請求記号：184/Su56】

アンガーマネジメントの重要性やその方法に関する書を近頃多く目にします。それくらい現代人の多くが「怒り」を心の中に抱え、ある時にはその矛先を他人に向けることで悲しい事件が起こってしまうのです。しかし、「怒り」とは人間誰しもが持っている感情であり、古来の人々はそれをどのように解決してきたのだろう、そのような疑問が湧いてきます。

本書では仏教の経典を引用しながら、「怒り」とは何か、怒りがいかに自分自身を不幸にしていくのかが解説されています。数千年を生きたブッダの、怒りを表現する語の多さに驚かされるとともに、普段感じるモヤモヤした感情も「あ、実はこの感情は怒りだったのか」と気づき、どこか腑(ふ)に落ちることもあります。

怒りは猛毒、怒るのは頭が悪いからだ、など怒る人を煽(あお)りつつ、怒ってよい理由などない、とその真意が語られています。怒ることは元来当たり前の感情、という現代のアンガーマネジメントの前提とは一線を画した「怒り」の説明書です。

東京柔道整復学科
小黒 正幸 先生

『デカルトの誤り 情動、理性、人間の脳』
アントニオ・R・ダマシオ著　田中三彦訳
筑摩書房　【請求記号：491.371/D34】

『心臓の暗号』
ポール・ピアソール著　藤井留美訳
角川書店　【請求記号：491.323/P31】

「こころ」って、「からだ」のどこにあるんだろう？

「こころ」は、身体に大きな影響を及ぼしている。こころの悩みがストレスとなって身体を傷つけ、心身ともに苦しんだ人も少なくないだろう。そんな「こころ」は「からだ」のどこにあるのか、と疑問に思ったことがあるだろう。そもそもどこから生まれてくるのか、こころと身体は別なのか、一体なのか、どのように関係するのか、そんな疑問をもっている人に「考えるための材料」として、この 2 冊を紹介したい。

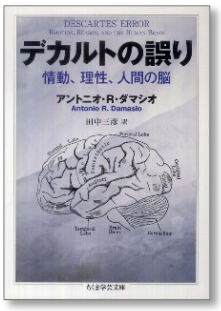
かつて西洋では、かの有名なデカルトの「心身二元論」においてこころと身体は異なる存在であるとされた。一方で東洋では、昔から「心身一如」という教えがあり、こころと身体は一体という考えであった。現代科学では、心は大脳辺縁系などを中心として「脳」で形成されるが、「心身相関」の下、全人的にトータルで考えるのが一般的になっているといえるようだ。では脳においてこころはどのように生まれてくるのだろうか。

神経学者でもあるアントニオ・R・ダマシオは、デカルト批判をするのではなく、自説を展開し、『脳幹の機能とからだの反応が高度に結びついた人類では、いわゆるこころが生まれたが、からだの反応として経験される「情動」がこころには「感情」として認識される』と述べている。例えば、驚いたから身体が硬くなるのではなく、身体を硬くする反応を「驚き」として認識するということであり、こうした身体の反応こそが、こころをつくっていく、生み出していると本書で述べている。科学的には納得できる部分もあるが、私の「こころ」的には納得できない部分もある。

広辞苑をみると、こころの語源は人の内臓に由来している。こころが傷ついた人は胸に手を当てる。英語の heart を辞書で引けば、心臓の他に心、愛情、勇気とでてくる。だから「こころは胸に宿る」のではないか、と、つい考えてしまう。きっと同意見の学生さんもいるだろう。そんなことを含めて、本に著しているのが医学者であり心理学者でもあるポール・ピアソールである。

ピアソールは心臓（胸）にも記憶や心があるという。様々なテストや実験、研究から、心臓は思考し、記憶するという。古い本なので、現代科学的には否定され、通説としては、そこには存在しないとしても、納得してしまう事例が多数載せられている。この本を擁護するわけではないが、私はなんとなく「こころ」は胸から生まれ胸にあってほしいと思う。…と、思ってしまうこの感情＝「こころ」もきっと今、脳が生み出しているのだろうから複雑である。

この本をきっかけに、悩みや苦しみと同時に、多くの喜びや幸せも生み出している「こころ」について、考えてみてはどうだろうか。



知ることから始まる

医療福祉学科
三木 良子 先生

少しだけ
自分が住む地域以外に
目を向けてみませんか？

『海をあげる』
上間陽子著　筑摩書房　【請求記号：914.6/U41】

「海をあげる」というタイトルは、海沿いで生活する沖縄在住の筆者の生活を詩的に表現する、そんな印象を与えるものだ。しかし、筆者である上間陽子氏は、沖縄に住む少女たちの貧困と被虐体験、また若年出産などを調査し、実際に寄り添い支える活動も行う社会学者である。

本書では、沖縄の豊かな文化と上間氏の娘との日常的なやりとりを通しながら、氏が住む地域を鮮明に伝えている。そこには、地域特有の文化とそこで暮らす人たちの営みだけでなく、米軍基地の存在により綿々と当たり前の日常が壊されていくこと、恐怖を感じながらもそれに対する発言権を奪われつづけ、沈黙せざるを得ないこと。また、貧困と暴力の連鎖と弱い立場になりやすい女の子たちが傷つけられていく日常などが存在する。

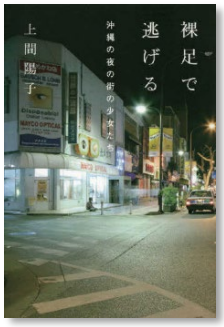
これらの現実を文献や資料などで見聞きしても、どこか他人事として捉えている安穏とした自分へ居心地の悪さを与える一冊でもある。それは本文中に、ある抗議集会に関する語りの中で、まるで私に対して突きつけている言葉があったからである。

冒頭にタイトルの印象を示したが、これは非常に強いメッセージである。それは、辺野古新基地建設により、そこに住む人たちの声がつぶされ、土砂が投入され汚された「海」をわたしたちも受け取らなければならないことを意味する。そして、「海」に象徴されるわたしたちが他人事としてきた同じ日本に住む人たちの苦悩を感じ取り、どう行動するかが問われると強く感じる一冊である。

医療福祉学科
一色 哲 先生

隠され続けてきた
対象と課題に光をあてる。

『裸足で逃げる　沖縄の夜の街の少女たち』
上間陽子著　太田出版　【請求記号：367.68/U41】



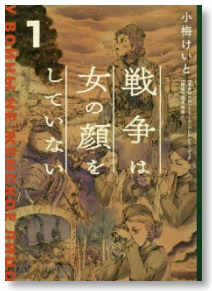
年に数回、1 週間以上沖縄に滞在していると、沖縄が抱える問題は米軍基地問題だけではないことが次第に解ってくる。子どもたちの貧困も搾取される女性たちも、国際通りやアメリカンビレッジからは見えにくい。離島から家出してきた少年少女が生きていく手段は、限られている。これら見えにくい問題は、基地問題と“地続き”の関係にあり、その先をたどっていくと沖縄戦や琉球王国を解体し日本に併合した「琉球処分」にまでさかのぼる。日本の防波堤であり、内国植民地であり続ける島。

本書は、そんな日米共同の強権的行為をことさらに摘発したりはしない。しかし、これまでマスコミや研究者が注目してこなかった対象と課題に光をあてた本書を手がかりに対象を深く知ろうとすると、隠れているもの、隠されているものが透けてみえてくる。沖縄を訪れることがあれば、観光地や戦跡だけではなく、本書を携えて知らないスージグヮー(裏路地)を見てきて欲しいと思う。

声なき人々の声に
耳を傾ける。

『戦争は女の顔をしていない』
スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ著　三浦みどり訳
岩波書店　【請求記号：986/A41】

『戦争は女の顔をしていない』
小梅けいと作画　スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ原作
KADOKAWA　【請求記号：986/A41/1～3】



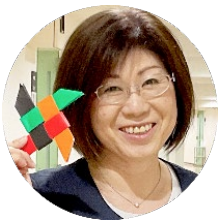
著者のアレクシエーヴィチは、1948 年、ベラルーシ人の父とウクライナ人の母の間にウクライナで生まれた。彼女は 2015 年にノーベル文学賞を受賞した。

戦争は男が起こし、男たちが戦うもので、女性たちは「銃後」の支援にまわっている。それは、我々の勝手な思い込みにすぎない。第二次大戦中の独ソ戦で、ソ連は 100 万人以上の女性たちを戦場に動員した。女性たちは医師や看護師だけではなく、狙撃兵やパイロットなどとして前線に立ち男性兵士とともに戦った。しかし、戦後、国家は彼女たちの‘功績’に報いることはなく、帰還した女性兵士たちは社会の冷たい視線にさらされた。こうして、元女性兵士たちは自らの体験を語る機会も意欲も失った。

彼女は 1978 年に雑誌記者としてそんな沈黙する女性たち 500 名余りに聞き取り調査を行った。本書は、その記録である。コミック版第 2 巻の帯にはこうある。「この本は理解するためのものではありません。理解していないことを知るための本です」(速水螺旋人)と。

身の回りの科学

かがくのとものもとを見つけてみましょう



幼児保育学科
渡辺 令子 先生

『かがくのとものもと　月刊科学絵本「かがくのとも」の 50 年』
かがくのとも編集部編　福音館書店　【請求記号：019.53/Ka16】

『かさぶたくん』
やぎゅうげんいちろうさく　福音館書店　【請求記号：726.6/Y16】

1969 年に世界で初めての月刊科学絵本として誕生した『かがくのとも』が 2019 年 3 月号で 50 年を迎えました。記念誌として創刊号を含め、601 作品すべての表紙とあらすじ、50 年の工夫の数々、一冊の『かがくのとも』ができていく過程、第一人者たちの語る科学絵本観、幻の付録などが盛りだくさんに収録されています。子どもの時に、「なんだろう?」「なぜだろう?」・・・と思っていたことが、大人になって見た絵本から、「なるほど!」と理解したり感動したりしてしまうほど、”かがく”の出会いがこの中にたくさんあります。

かがくのとも絵本『かさぶたくん』は、1997 年 5 月号で発行され、私が幼児クラス担任当時の月刊誌でもあり、子どもたちと何度も読んだ思い出があります。転んでできた傷が何故、かさぶたになるのだろうか、かさぶたを剥いてしまうと血が出てきてしまうのだろうか等、絵本を通して自分の身体のしくみを知っていくだけでなく、”かさぶたくん”というなんとも親しみのあるものとして伝えてくれる一冊です。

家にすみつく
多様な生物に目を
向けよう！

アニマルサイエンス学科
今野 晃嗣 先生

『家は生態系 あなたは 20 万種の生き物と暮らしている』
ロブ・ダン著　今西康子訳　白揚社　【請求記号：468/D97】

私はカマドウマ（俗称、便所コオロギ）が苦手です。小学生の頃、玄関で靴の中に入り込んでいたヤツを知らずに踏みつぶしてしまったことがきっかけです。今でもその姿を見ると目を覆いたくなります。

でも、本書を読むと、どんな生物にも関心を向けて真剣に研究することが大切だ、ということが実感できます。事実、著者らの研究の結果、カマドウマの腸内から、難消化性化合物を分解できる細菌が発見されたそうです。この細菌は廃棄物処理や新たなエネルギー利用などに応用できるかもしれません。

また、生物多様性を維持することが大切だ、ということもよく理解できます。著者らが世界中の浴室のシャワーヘッドを調べたところ、未処理の井戸水よりも、殺菌済の水道水が出るシャワーヘッドの方に、より多くの有害な抗酸菌がいたそうです。多様な生物を殺すと競争相手の不在につながり、反対に特定の有害な生物が増えてしまうことがあるのです。

ぜひみなさんも本書を読んで、身近な生物に対する新しい見方を手に入れていただければと思います（かくいう私も、ヤツのことはまだ苦手です）。

自然環境学科
石井 あゆみ 先生

料理は科学！
科学は料理！
料理好きにも科学好きにも
おすすめです。

『料理のわざを科学する キッチンは実験室』
Peter Barham 著　渡辺正ほか訳　丸善　【請求記号：596/B21】

「料理は科学実験」… 実験は好きでも、料理はほとんどしていなかった私が、この本を読み、料理をするようになりました。料理をするとき、皆さんは何を考えますか？「食材をそろえ、調理器具を選び、手順を考え、出来上がったら味見をしてうまくいったか確かめる。同じ料理に挑戦する場合は、前回のやり方を見直し、さらに美味しくなるよう工夫する」まさに科学実験も同じで、特に初めて挑戦する実験は、料理と同じように慎重に下調べをして手順を考えて進めます。

では、なぜ料理（実験）で失敗するのか？そのサイエンスをこの本では紹介します。料理も科学実験も基礎理論が重要で、その知識があれば失敗は減らすことができます。この本は、沢山のレシピとそのコツを基本的な科学の知識で解説してくれます。料理が好きでも、科学はちょっと苦手という人でも、料理を介して科学を身近に感じることができます（料理も実験も上達する？かもしれません）。

（前ページからつづき）

身の回りの科学

アニマルサイエンス学科
深山 俊治 先生

今日も朝から眠くないですか？

『スタンフォード式最高の睡眠』

西野精治著　サンマーク出版　【請求記号：491.371/N85】

朝起きた時に「あ～眠いなー。昨日遅くに寝たからなー。よしっ!!今日は早めに寝よう!!」と身支度をして急いで出掛ける。こんなことを夜にはすっかり忘れて結局夜更かし。こんな経験は誰でも一度はしたことがあるのではないでしょうか。

この本では、世界最高学府の1つであるスタンフォード大学での研究を中心に「睡眠」について科学的な証拠（エビデンス）を元に書かれています。なぜ眠らなければならないかということから始まり、睡眠のメカニズムを理解し、どのように睡眠を改善出来るかがわかりやすい言葉で説明されています。

私自身も本書を参考に就寝する時間を固定し、夜更かしするのではなく早起きして時間を作ることにしたことで日中の眠気が随分と減りました。せっかく眠るならば「最高の睡眠」を手に入れ、眠気から解放され、日中の高いパフォーマンスを得ませんか。

総合教育センター
松本 ディオゴけんじ 先生

数学は何の役に立つのか？

『これも数学だった!? カーナビ・路線図・SNS』

河原林健一ほか著　丸善出版　【請求記号：410.4/Ka96】

中学や高校で数学を学んできて、「数学は社会で役に立っているからこそ学ぶ価値がある」といった言葉を聞いたことがあるかと思います。しかしながら、学校で数学を学んでいても、どのように役に立っているのか、どう現実社会とつながりを持つのか、ということは中々見えてきません。本書は、このような疑問に答えるため、離散数学と呼ばれる分野が社会において用いられる様々な具体例を紹介した一冊です。例えば、下記のような身近な例が扱われています。

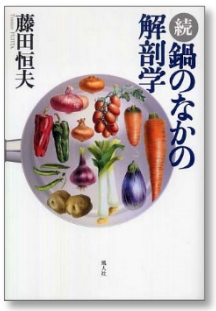
- 地図や鉄道路線図に応用されている「トポロジー」
- 野球の試合スケジュールに、離散数学を役立てる
- お掃除ロボット「ルンバ」と平面グラフ

近年、数学はますますその重要性が強調されています。本書を読めば、数学の新たな一面を発見することができ、数学をより身近に感じることができるようになるはずです。数学の基礎知識がなくとも読み進めることができるように書かれているので、是非とも、気軽に手に取って読んでみてください。

東京柔道整復学科
杉山 渉 先生

『鍋のなかの解剖学』
藤田恒夫著　風人社　【請求記号：490.49/F67/1】

『続 鍋のなかの解剖学』
藤田恒夫著　風人社　【請求記号：490.49/F67/2】



藤田 恒夫（1929 年 - 2012 年 2 月 6 日）は日本の解剖学者、内分泌学者。

1954 年東京大学医学部卒業、1959 年同大学院博士課程（解剖学）修了。博士論文の題は**「二、三の哺乳動物の膵臓における神経膵島複合体についての組織学的研究」**。岡山大学医学部講師、1968 年新潟大学教授、95 年定年退官、名誉教授、日本歯科大学新潟歯学部教授。2012 年 2 月 6 日 脳梗塞のため死去。82 歳没。

藤田恒夫氏は日本で非常に著名な**解剖学者**の一人である。

「ミトコンドリア」を食べてみたい、というのが藤田氏の夢であったという。高校時代に生物を学んだ学生はご存知であろうと思うが、**ミトコンドリア**は脂質二重層でできた外膜と内膜を有し、膜には様々なタンパク質が存在する。ミトコンドリアでは、高エネルギーの電子と酸素分子を利用して、**ATP** を合成する。ATP は生体内の様々な反応過程において、エネルギーとして使用される。

その ATP を食べてみようという発想が実に面白い！

藤田氏は 1995 年 3 月に新潟大学を退官したが、25 年間書きためたエッセイをまとめたのが本書である。臓器に向ける深い情熱や、学生との型破りな交流を綴っている。また彼は**「興味あるものを見るだけでなく、臭いをかいだり、口に入れる好奇心は絶対に必要」**と語っている。

現代の医療がどのような変遷を経て来たのか、**「医学史」を学ぶ**ことは非常に重要である。医学史における近世は、1543 年に**ヴェザリウス**が**「人体の構造（ファブリカ）」**を出版した時に始まるとされる。現在、コロナ感染症がまだまだ終息に程遠いが、人類は幾多の感染症を克服して来ている。この書の中にはそのような医学の歴史についても述べられているので、非常に興味深く読めると思っている。

医療を学ぶ上において「解剖学」は極めて重要な学問であるが、なかなか修得が難しい学問でもある。また学ぶ時にはすべてにおいて**疑問をもつこと**、そしてやはり何を行うにしても**楽しく学ぶ**、これに勝るものはない。与えられたことを為すことも大事だが、**いろいろなことを発想し柔軟に対応する**ことの大切さを学んで欲しい。

学生諸氏には解剖学を学ぶ楽しさを知ってもらう為にも、ここに是非一読を勧めたい。

～「解剖学」を学ぶ楽しさを知ろう！～

新たな視点

教職センター
鈴木 貴史 先生

数値化、言語化できない技術を継承するには

『「わざ」から知る』
生田久美子著　佐伯胖補稿
東京大学出版会　【請求記号：141.5/N76/14】

イチロー選手のバッティング、武豊騎手の騎乗、中村俊輔選手のフリーキック、これらの技術について、身体動作のデータを取り数値化すれば、言語化して次世代に継承していくことが可能なのでしょうか。

私の恩師の一人である著者の生田久美子先生は、「型にはまった」教育として既存の教育学では否定的に捉えられてきた伝統芸能の「わざ」に着目し、こうした高度な技術を継承するための手がかりを探っています。この「わざ」とは単なる「技術（skill）」を超越した概念であり、数値化、言語化が困難であるとされています。では、イチロー選手、武豊騎手、中村俊輔選手の何をどのように学べば彼らの類い希な技術を次世代に継承できるのでしょうか。それは本書の中から皆さんで探ってみてください。

言語教育学を専門とする私の運命を変えた一冊です。「数値によるデータがなければ研究ではない」と考える帝京科学大の学生の皆さんに是非読んでほしい一冊です。

こども学科
前嶋 深雪 先生

現代思想はおもしろい

『はじめての構造主義』
橋爪大三郎著　講談社　【請求記号：116.9/H38】

わたしが大学院時代に熱中した学問は日本語学です。言葉と思想には親和性があります。大学院に入り、現代思想を学ぶために最初に読んだ本が『はじめての構造主義』でした。構造主義はだいたい 1970 年代ごろに日本に入ってきた新しい思想（とらえ方や考え方のパラダイム）で、理解が大変難しいと言われていました。

ところが、この本はワクワク感に満ちていて、考え方がかわることによって、新しい世界が立ち上がるという経験をさせてくれました。文化や思想はその枠組みの中のものしか発見することができません。存在するけれども見えていないものがこの世の中にはたくさんある！　という人生を豊かにする本でした。

『はじめての構造主義』に出会わなかったら、構造主義には親近感が持てなかったかもしれません。最初に何に出会うか？ によって、その後のお付き合いが異なってしまう･･･　本も人間も、出会いの大切さは同じなのだなと感じます。

人間主体の視点を取り払って
動物の心を探ることの重要性

アニマルサイエンス学科
リングホーファー　萌奈美　先生

『動物の賢さがわかるほど人間は賢いのか』
フランス・ドゥ・ヴァール著　柴田裕之訳
紀伊國屋書店　【請求記号：481.78/W11】

皆さんは、この世の動物の中で人間が一番賢いと思っていませんか？

これまで多くの人々は、人間が進化の頂点に位置するという「進化に関する誤解」をしたまま様々な動物を観察し、動物には人間のように高度な認知能力はない、人間が一番賢い、と結論づけてきました。しかし各動物の認知能力は、異なる基準のもとで進化して特殊化しているため、人間中心的な単一の尺度で比べても意味がありません。

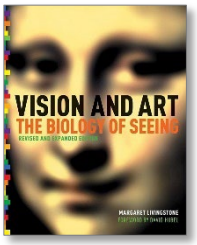
著者であるドゥ・ヴァール博士は、霊長類の認知能力・行動に関する研究の第一人者で、専門は動物行動学です。味がある著者手書きのイラストとともに、動物に関する生き生きとした逸話から最新の実験研究例まで、動物の心や行動に関する豊富な事例を正確に記しています。文章は、ユーモアと正確さ、分かりやすさを兼ね備えています。ヒトを含む動物の心や行動に興味を持つ方々に、まず初めに読んでいただきたい本です。

（前ページからつづき）

新たな視点

作業療法学科
鈴木 幹夫 先生

視覚にまつわる三題噺



『もうすぐ絶滅するという紙の書物について』
ウンベルト・エーコほか著　工藤妙子訳
阪急コミュニケーションズ　【請求記号：020.4/E19】

『うつむく眼　二〇世紀フランス思想における視覚の失墜』
マーティン・ジェイ著　亀井大輔ほか訳
法政大学出版局　【請求記号：135.5/J29】

『Vision and Art　The Biology of Seeing』
Margaret Livingstone 著
Abrams　【請求記号：701.4/L75】

小学校の時「家庭科」という科目があって、その教科書は他の科目のそれと違って、栄養素の話や、運針の方法が図入りで解説してあったりと、実生活に密接な内容のせいか実に興味深く熟読したのを覚えている。アスベストはある種の肺がんの原因になるとか、ラードは動脈硬化の原因になると明確に書いてあり、とても重要なことが書いてあると感じたが、アスベストの訴訟がついこの間まで続き、背脂ギトギトのラーメン屋が人気なのは意外なことである。家庭科の試験は、選択語句不提示の穴埋め問題であったせいかクラスの成績は振るわなかった。私は試験中、答えがわからないと、目をつむって教科書の紙面を思い出す。すると、ぼんやりと四角い教科書が浮かび上がってきて、目を凝らすとその文章の中に答えの語句がうっすらと見えた。友人の母親は、私がそんなに教科書の隅々まで覚えたのかと驚いていたが、覚えたのではなく、見えたのだ。さて、息子が中学に入って英和辞典を買ったが、すぐに電子辞書が欲しいと言い出した時に、私は紙の辞書を指でめくって単語を探すことの意義を唱えたが、「みんなが持っているんだから」との妻の一言で息子は電子辞書を買った。電子書籍がタブレットで読める時代になったが、本好きなら手に取ってみたくなる題名が付いている『もうすぐ絶滅するという紙の書物について』は、対談なので内容が希薄ではと危惧したが、イタリア人とフランス人の対話は、ヨーロッパの散文精神のエスプリゆえに内容が幅広くページ数も 400 ページを超える。片手で持つと程よい重さであり、本の本質はこの重さにこそあると気付かされる。装丁もしゃれていて、本棚のそこだけが空気が張り詰めているのがわかる。

思春期の頃だったか、夜寝るとき、暗い部屋の中で閉眼し、疲れた目を両手で軽く圧迫してそれを離すと、漆黒の中に、八の字を横にしたような歪（いびつ）な２本の白い線が見えることに気が付いた。その形は毎回全く同じであったが、いつしかそれが網膜下の血管が見えているのだと私は思い始めた。その後解剖学アトラスをみてそれは確信に変わった。眼は、網膜の後ろも見えるのだ。世界を知覚するとき、他の感覚に比べ視覚情報への依存度は高く、競合した場合は視覚情報が優先される。知覚についての論文も視覚に関するものが圧倒的に多い。この視覚の覇権体制に異議を唱えている刺激的な本が『うつむく眼』であるが、引用文を本文の中に取り込んで書いているので議論の進行がスムーズで、内容は濃密にもかかわらず、一気に読み進めることができる。しかしこれは先の本よりさらに手に重力を感じさせる大部なものではあるが。

記憶が曖昧だが「私は見なくていいものは見ないように訓練されていた」といったようなことを言ったのは三島由紀夫であっただろうか。サッカードする脳内機構への前頭葉のトップダウン制御の問題かもしれないが、これは努力すればじきできるようになる。少し違う話ではあるが、昔、眼球を動かすことなく視野の隅のほうに注意を集中させてそのあたりを鮮明に見るよう努力したことがあったが、ある程度は見えるようになるがとても疲れるのですぐにそんなことはやめた。周辺視に中心視とは異なる機能があるのは明らかだが、そのあたりの研究はとても少ない。ダ・ヴィンチの《モナ・リザ》は、ぼんやりと見ると微妙な微笑を口元にたたえているよう感じるが、その口元に視線を移すと微笑は消える。『Vision and Art : The Biology of Seeing』は片手で持つにはやや重たい本ではあるが、そんな興味深いことも書いてあり、文字より図版のほうが多いので読みやすいはずだ。

物語から広がる世界

東京理学療法学科
塚田 絵里子 先生

希望を持つことの意味を考えさせられる、珠玉の名作

「刑務所のリタ・ヘイワース」

『ゴールデンボーイ 恐怖の四季；春夏編』収録
スティーヴン・キング著　浅倉久志訳　新潮社　【請求記号：933.7/Ki43/2】

本作は表題作「ゴールデンボーイ 恐怖の四季 春夏編」の前に収録されている中編小説である。不朽の名画「ショーシャンクの空に」の原作だと言えば、わかる方も多いだろう。スティーブン・キングといえばホラー小説の大家であるが、これはホラーではない。刑務所内外で起こる出来事や主人公アンディーについて、調達屋レッドがウィットに富んだ（時には少々下品な）表現で語るという手法で物語は進んでいく。

舞台であるショーシャンク刑務所では、思わず顔をしかめるようなエピソードが日常茶飯事だ。ある日、いつもと違う様子でアンディーがレッドに頼んだものはリタ・ヘイワースのポスターだった…。

長い刑務所生活で、自身の将来に希望を持つ力も失われている多くの受刑者。絶望的な状況の中でも希望を失わず、抗っていくアンディーの行く末を案じずにはいられない。

少し先を想像させる余韻を残した美しいラストの表現に、ぜひ浸っていただきたい。

「ショートショートの神様」が紡ぐ、ブラックユーモア

『ボッコちゃん』

星新一著　新潮社　【請求記号：913.6/H92】

SF 作家でショートショートの神様と呼ばれる星新一自らが選出した 50 編をまとめた、入門書とも呼べる本書。ドラマ化もされたので、原作に触れてみたいと思った方もいるかもしれません。私自身は小学生から中学生の頃にショートショートの魅力にどっぷり浸かり、懐かしさにまた手に取ってみました。

1 編が 5 ページ程度の話が多くあっという間に読み進められるため、読書を始めたい、でも活字はちょっと苦手という方にもお薦めです。作者の簡潔かつ情景が浮かぶような文章は読みやすく、古さを感じさせません。

登場人物の多くは、欲望に満ちたあるいはちょっとずるいことを考えている人間。彼らに訪れる予想だにしない結末には、我々読者も驚かされたり、ぞっとしたり。勧善懲悪ではない物語は、読後に生じる「ちょっと嫌な感じ」とともに、考えさせられます。

星新一ワールドに、あなたもはまってみませんか。

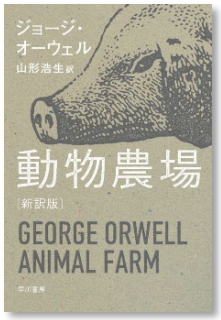
（前ページからつづき）

物語から広がる世界

アニマルサイエンス学科
戸澤 あきつ 先生

真実をどのようにとらえ、どのように考えますか？

『動物農場』
ジョージ・オーウェル著　山形浩生訳
早川書房　【請求記号：933.7/O71】



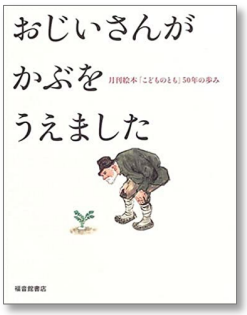
飲んだくれのジョーンズさんが所有している農場を、飼われている動物たちが反逆を起こしてのっとってしまいます。その後は動物たち主体の農場になりますが、知力に優れているブタが主導権を握り、統治していきます。人間からの攻撃や自分たちが作ったものが破壊されるといった様々な事件が発生します。それをひとつずつ解決しているように見えるのですが…。

本書は 1945 年に出版されているので 77 年も前の作品です。当時はロシア革命やソビエト連邦を理想とする「ソビエト神話」への警鐘として書かれた作品のようですが、80 年近く経ったいまの時代にも当てはまるように思いました。平等性を主張しつつも、最終的には誰かが主導し、その主導者が独裁的になっていきます。実は情報操作もされています。それに対して民衆は小さな疑問を持ちつつも最終的に異論を唱えずに流されていきます。今の時代、多くの情報が行き交う中で誰か一人に支配されないためにも、自分が真実をどうとらえ、どのように考えるかが大切なのだと知らされた1冊でした。

幼児保育学科
安部 久美 先生

このおじいさんに見覚えがありませんか。

『おじいさんがかぶをうえました 月刊絵本「こどものとも」50 年の歩み』
福音館書店編集部編　福音館書店　【請求記号：019.53/F76】



このおじいさんは、『おおきなかぶ』に登場する“おじいさん”です。おじいさんは言います。「あまい　あまい　かぶになれ。　おおきな　おおきな　かぶになれ」

本のタイトル『おじいさんがかぶをうえました』は、1956 年 4 月に植えた小さな苗が、たくさんの人々に育てられ、大きな実を結んだことを『おおきなかぶ』の絵本にちなんで名づけられました。この本は、1956 年 4 月から 2006 年 3 月にかけて福音館書店より発行された月刊絵本『こどものとも』の 50 年間、603 作品の歴史を追った冊子となっており、発行された絵本の情報とともに、『こどものとも』を発行した松井直氏の思い、作家の絵本作成秘話などが綴られ、日本の絵本の歩みの深さを知ることもできます。松井直氏は『こどものとも』の編集にあたり、子どもの成長において真の芸術体験となるような、子どもの育ちを支える文化として本格的な絵画を見せられる絵本作品を願っていました。

長く読み継がれた絵本の世界に浸ってみませんか。幼いころ心揺さぶられた思いが再びこみ上げてきます。

実体化した時間泥棒

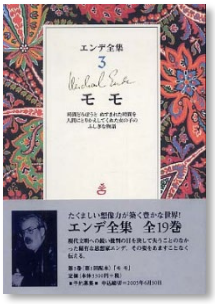
千住【請求記号：943.7/E59】

こども学科
前嶋 深雪 先生

『モモ』
ミヒャエル・エンデ作　大島かおり訳　岩波書店

『モモ』は児童文学ジャンルの作品ですが、わたしがはじめてこの本を読んだのは高校1年生のときでした。そのときには、「時間ってなんだろう？」「時間って、一人ひとり持っているものなの？」「でも時計でみんな同じ時間として区切られているよね？」「わたしの時間はわたしが決めていけるものなの？」など、時間を意識する思考が湧きあがりました。大人になった今は、「灰色の男たち」によって「時間泥棒」が実体化することで、見えない時間を可視化する手伝いをしてくれている作品であると考えています。

物語や小説というものはとても不思議で、おばけがいたり、熊がしゃべったり、宇宙人がいたり、人ではないものがたくさん現れます。物語や小説を読むことは、現実にはいない存在が立ち現われるという「文字による実体化」の威力を感じると同時に、「そうぞう（想像と創造）」の力を培うレッスンにもなっていると思うのです。



東京西【請求記号：948/E59/3】

HABE KEINE ANGST・・・・
恐れるな！

医学教育センター
渡邊 利明 先生

『モモ』
ミヒャエル・エンデ作　大島かおり訳　岩波書店

ミヒャエル・エンデ（Michael Ende）は第一次大戦のドイツ南部で誕生・育ち、激動の第二次大戦を多感な 10 代で過ごしたのち、1960 年になると児童書作家として有名になった作家です。その後イタリアへの移住中の 15 年間で『Momo』が執筆されています。ドイツ時代の厳格な環境・教育と大戦後の人間解放な環境の中、ルーズな時間を楽しむイタリアの環境の中にあって書かれたこの『Momo』は、児童文学としては「強いメッセージ・引き込まれるSF 性」があり、この「おもしろさ」はかつての一少年であった小学生の私のこころを揺さぶりました。

「Momo」は身寄りもない少女なので、街では受け身の人生を受けているが、ある日「時間泥棒である灰色の男たち」が来て町のヒトは時間を搾取されると、「Momo」は毅然として立ち上がり、「灰色の時間泥棒から町の人を救う」。この一連の「ヒトとしての主体性の確立」を基本理念に書かれた物語は、児童文学というより「ヒトが主体性を取り戻す心理療法的な瞬間」を表すに十分な表現がいたるところにちりばめられている心療内科的側面を持つ内容でもあります。～17 章：不安と心細さが激しくなって極になったとき・・不安は消え・勇気と自信が・・・負けるものかという気分になった～・・・

また現代的・別な側面として、この物語は、時間に追われ周りを考えられなくなり、SNS しか信じられない・・・本当に大切な周囲のこと（家族や仲間）を忘れてしまっている現代社会への批判にも当てはまるのではないでしょうか。

手記をよむ

生命科学科
西川 翔 先生

最近、活力足りてます？
そんなあなたに至極の一冊

『流れる星は生きている』
藤原てい著　中央公論新社　【請求記号：916/F68】

夏真っ盛り、花粉症の時期とは言えない時期、松本から家に帰る電車の中、文庫本で必死に顔を隠し鼻をぐずぐずいわせている登山帰りの男がいる。それはつまるところ私なのだが、前方 60 cm も離れていない対面席の客にとってはさぞ珍妙な光景であっただろう。

この本の著者、「藤原てい」の夫は山岳文学の大家、新田次郎である。内容は登山とは関係ないが山仲間の薦めもあってこの本を旅の供としたのだ。

時代は終戦直後の満州。占領国から一転、敗戦国となり、新たに迫りくるソ連軍から一刻も早く日本へ逃げなくてはならない命がけの切迫した状況である。著者と3人の幼子、そして離ればなれの夫。心身共に過酷な状況の中で描かれる壮絶な体験が、一切の虚飾を廃した真っすぐで誠実な文体で精緻に描写される。だからこそ読者は、現在とかけ離れた著者の経験を共有し、没入し、そしてストレートに心が揺り動かされるのだろう。著者が見せる人間の根源的な力強い生命力は、読了後の得難い清々しさ、湧き溢れる前向きな力をも私たちに与えてくれる。

人生あれこれ悩むなら 100 の自己啓発本や動画を見るよりこの本で事足りる。が、ラストは電車など公共の場で読むことは薦めない。花粉症でもない限り言い訳できない状況になるだろう。

柔道整復学科
昇 寛 先生

第一線記者が経験した慈愛の入院生活

『聖母病院の友人たち 肝炎患者の学んだこと』
藤原作弥著　新潮社　【請求記号：916/F68】

本書は第 31 回 日本エッセイスト・クラブ賞を受賞したエッセイである。通信社の経済記者（海外特派員）であった著者が、肝炎を患って6ヶ月間の入院生活を余儀なくされた時の物語である。カトリック病院を舞台にした日々の生活が淡々と描かれ、カトリック病院らしく国際色も豊かに外人神父やシスターといった人物も実名で登場する。静寂の病院内にはマリア像が配され一種修道院の様な空気感が漂う描写は欧州風情を醸す。また著者同様に病室で静かに静養されている患者さん達を独自の視点で描きつつ、病院での日々の生活の様々なエピソードを巧妙で軽やかなタッチで伝えている。暗いイメージの筈の病院生活を朗らかな温もりの中で関わる人々のエモーションを見事に昇華させたエッセイである。

表紙と裏表紙には著者の御令嬢の描いた病院チャペルが描かれているのも必見である。著者はのちに日本銀行副総裁に就任された異色の作家でもある。

この聖母病院、私が理学療法士として19年間臨床経験を積んだ病院である。

教職センター
稲川 健太郎 先生

読んだ後にも余韻を反芻（はんすう）する ―あるいは、七十七年前の三月、尾竹橋から何が見えたか

『わたしの流儀』
吉村昭著　新潮社　【請求記号：914.6/Y91】

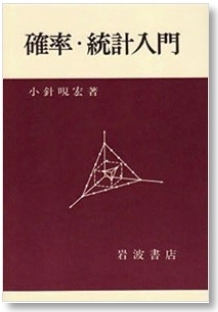
千住キャンパス本館のスーパー堤防口を出ると ―7 号館からでも― 目の前に隅田川に架かる尾竹橋が見える。今から七十七年前の三月十日から数日後、吉村昭少年は「自転車で尾竹橋を渡った。橋の上に数人の人だかりがあり、欄干にもたれて川を見下ろしている。私も自転車を止めて川面を見下ろした。そこには、二、三十の死体が大きな筏のように寄りかたまって浮かんでいた。火に追われて川に身を入れ窒息死したらしく、焼け焦げの痕は見られない。嬰児（えいじ）を背負った女、手提げ金庫を背中にくくりつけた男、老人、若い女、中学生。」それから七十七年。スーパー堤防に腰掛け川面を見ながら談笑するのもよいが、このような歴史の一頁に思いを馳せる時があってもよいのではないか。

日暮里生まれで日暮里育ちの小説家、吉村昭の随筆集である本書には、このほか日常生活で垣間見た「ちょっといい話」や、「鳥肌が立つ」という表現が最近広く「誤用されている」ことの指摘（本来は、激しい恐怖を表現する）などもあり勉強になる。随筆とは読んだ後にも余韻を反芻するものだということを実感させてくれる一冊です。但し、「酒肴（しゅこう）を愉しむ」は社会人になってからどうぞ。

科学的思考

作業療法学科
本間 信生 先生

同じ釜の飯を喰うたる友は...



『確率・統計入門』

小針晛宏著　岩波書店　【請求記号：417/Ko27】

確率、統計についての書は、世の中に無数に上梓(じょうし)されている。それだけ理解しにくい分野だからであろう。

著者は、有名な数学書ブルバキの翻訳などもしている数学者であり、さらに数学教育にかかわった経験も持っている。なので、かなり高い数学的視点から正確に、平明でありながら軽妙に、この分野の入門について語ってくれている。

「重要な確率モデルはベルヌイ列に尽きる」と言い切っている点、本来ならば解析学で記されるはずの「スターリングの公式の導出とその使い方」、「正規分布関数のフーリエ変換とスペクトル分解」などは、興味深かったし感心もして読んだ覚えがある。

また、「チェビシェフ不等式は、大根の真ん中を捨てるようで、贅沢だ」や「微分する前に値を入れたら、どんな導関数も、ゼロになってしまう」などのあたりは、数学教育の現場を想像して笑ってしまった。

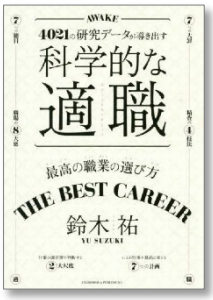
逆に、お手軽な How To を語る本ではないので、「週末に締め切りのレポートに間に合わせる目的でのエクセル推計検定の手順」などなどには、役に立たない。実用性に乏しいと考えれば、購入するよりも図書館から借りるべき書物かもしれない。

実は、著者は夭折(ようせつ)した為、大学時代とその後を過ごした友人達が遺稿を補って本書を完成させている。彼らによる「序文」や「あとがき」からは、著者への友情と哀悼の意が伝わってくる。

確率統計の勉強もそれなりに大事なのだが、大学時代からの友人関係や「同じ釜の飯を食った仲間」の在り様について思い至る点があるならば、現役大学生たる諸君にこの本を紹介する意味があるのだろう。

学校教育学科
米田 巌根 先生

目から鱗の適職の探し方



『科学的な適職 4021 の研究データが導き出す　最高の職業の選び方』
鈴木祐著　クロスメディア・パブリッシング　【請求記号：366.29/Su96】

この「タイトル」を見て、皆さんはどのように思われるでしょうか？

適職探し、それは、好きなことを仕事にする、得意なことを仕事にする、お金がたくさんもらえる仕事にする、もしくは家業をつぐなどがあるかと思います。いずれにしても職業は、人生の中で、個人の生活の多くの時間を占め、ほとんどの人にとって、その選択は気軽にできるものではないでしょう。

本書は適職について、「あなたの幸福が最大化するような仕事」として定義し、数多くある科学的な根拠のある知見を集積、分類し、その項目を 7 項目に分けて紹介しています。

本書にある性格テストを試し、その結果を基に、自分がどんな職業を選んだら・・・など色々とイメージを膨らませながら、読み進めてはいかがでしょうか？

きっと、読み終わる頃には、職業選択への灯となるでしょう。

学校教育学科
髙田 由基 先生

『「学力」の経済学』
中室牧子著
ディスカヴァー・トゥエンティワン　【請求記号：371.3/N37】

エビデンスベーストの教育理論

学校や教育は誰もが経験しているので、自分の経験や思い込みで語りがちです。「褒めて伸ばすのがいい」「学力を上げるには読書」「テレビゲームは勉強に悪影響」これって本当でしょうか???なんとなく聞いたり感じたりしたことはあっても、そこに根拠があるかと問われると…。教育経済学が専門の著者が、数字やエビデンスに裏付けられた真理を明らかにしています。

足立区・近藤やよい区長は、足立区が解決すべき四つの課題として「子どもの学力、健康寿命の短さ、治安、そして、貧困の連鎖」を挙げていますが、本書にはその解決のヒントが隠されているように思います。「教育にはいつ投資すべきか」「“勉強”は本当にそんなに大切なのか？」「“いい先生”とはどんな先生なのか？」など興味深い内容が満載です。教育に関わる人にも、子育てする人にもぜひ読んでほしい 1 冊です。

教養を楽しく

教職センター
仲光 秀城 先生

教科書にない
歴史の見方を
味わってみませんか。

『歴史のミカタ』
井上章一、磯田道史著　祥伝社　【請求記号：204/I55】

『歴史とは靴である』
磯田道史著　講談社　【請求記号：210.04/I85】

私は、十数年前から、歴史小説を読み漁っています。傍らには常に一冊の歴史本があり、もう一人の自分が、その本の時代を生きているようです。ですから関ヶ原の合戦も数十回経験しました。

歴史本を継続して読む意欲が持てているのは、著者である歴史学者、磯田道史先生のお話を聞き、歴史の楽しさ、そして深さを知ったことです。テレビにも多く出演されていて、知っている人も多いのではないでしょうか。

今回紹介する『歴史のミカタ』は、歴史に興味があり、歴史本に何冊も触れてきている人へ、『歴史とは靴である』は、今まで歴史にあまり触れてこなかった人向けです。

昔の人の生き方を知ることは、これからの自分を考える糧になります。この本を読み、歴史の楽しさや深さの再認識・発見につながればと思います。

学校教育学科
金田 拓 先生

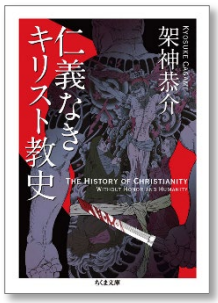
本を読むのは楽しむためだ。
楽しく読めば学びがついてくる。

『仁義なきキリスト教史』
架神恭介著　筑摩書房　【請求記号：913.6/Ka16】

宗教的なタイトルで敬遠してしまった人、少しだけ本書を見てほしい。彫り物の入った背中の表紙に、「おやっさん、おやっさん、なんでワシを見捨てたんじゃ～！」というセリフ。およそ神とかクリスマスとか、一般的なキリスト教のイメージと似つかわしくない、生々しさに殴打されて引き込まれるだろう。

キリスト教の長く複雑な歴史を、なんと広島弁やくざの血生臭い抗争に置き換えてしまった、とんでもなく真面目で超面白い作品。神ヤハウェは大親分「おやっさん」であり、信徒たちはおやっさんの理不尽に耐え、裏切り裏切られるキリスト組構成員。人間ドラマを描いた作品である。

この本は単なる娯楽として読んで面白い。自ら手に取って読む本、主体的に楽しむ娯楽は、教養という種を人生に残していってくれる。本を読んで面白いと思ったことは、後に取り組む何かに必ずつながる。しかしそれはオマケである。自由に、楽しく読もう。楽しく読めば、人生は勝手に豊かになる。



『仁義なき聖書美術 旧約篇』
架神恭介ほか著　筑摩書房
【請求記号：702.099/Ka16/1】

『仁義なき聖書美術　新約篇』
架神恭介ほか著　筑摩書房
【請求記号：702.099/Ka16/2】

総合教育センター
小堀 馨子 先生

神話にこそ
人間の真実が隠されている。

『ギリシア神話』
アポロドーロスほか著　高津春繁，高津久美子訳
講談社　【請求記号：164.31/A59】

『マンガギリシア神話』
里中満智子著　中央公論新社　【請求記号：164.31/Sa87/1～8】

『マンガギリシア神話、神々と人間たち』
さかもと未明著　小堀馨子監修　講談社　【請求記号：164.31/Sa32】

『ギリシア・ローマ神話：完訳』
トマス・ブルフィンチ著　大久保博訳　角川書店　【請求記号：164.31/B88/1～2】

皆さんは「神話」と聞いた時にそれは架空の出来事を描いていると思いますか？　大概の神話は作者不明です。その民族なり、文化集団の中で集団的に形成され、語り継がれてきたものが殆どです。神話の中では鳥獣が人間の言葉を語り、神々と人間が交流し、半人半獣の怪物が登場します。現実とは到底信じられないでしょう。しかし、一見非現実的と思える神話をよく読んでみると、人間の根源的な真実が物語の裏側に潜んでいることに気付かされます。神話の種類に多寡はありますが、神話をもたない民族はいないと言っても過言ではありません。

ギリシア人たちの神話は豊富で「ギリシア神話」と呼ばれています。しかし後世の編集の仕方によって異なるバージョンがあることを知って頂きたくて、今回は書籍もマンガも含めて四点をご紹介しています。私の授業でも一部を扱っています。是非図書館に行って手に取って読み比べてみてください。

法医学

東京柔道整復学科
杉山 渉 先生

～死者の最期の声を聞き、真実を暴け！～

『生きるための法医学　私へ届いた死者からの聲』
佐藤喜宣著　実業之日本社　【請求記号：498.9/Sa85】

地震・火災等による大規模災害がここ何年か頻発している。また世間を震撼させている重大事件、凶悪事件が日本のみならず世界各地で起こっている。その時に優先されるのが生存者の確認と救出であるのは勿論であるが、その次には不幸にして亡くなられた方の身元確認であることは言うまでもない。

日本の**「法医学」**の始祖とされるのは**片山国嘉氏**（1855~1931）であり、日本法医学会は彼の定義を基に**「法医学とは医学的解明助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学である」**と謳（うた）っている。

2020 年 11 月からフジテレビで**「監察医　朝顔」**が配信されており、それをご覧になった方は「法医学」というものがどういうものか、漠然とは分かっているかもしれないが、この『生きるための法医学』は法医学が誰にでもわかりやすい形で描かれている。実際の事件と死者が語った事実、それにも関わらず解決しなかった事件なども描かれていて非常に興味深い。字も大きく読みやすいので、入門書として気軽に読むことをお勧めする。

コロナ感染症が蔓延（まんえん）し終息に至っていない現在であるが、それら感染症について、死臭を察知するハエの特性などを利用する**「法医昆虫学」**、そして**エンバーミング、子供虐待**についての記述もある。

生きているものは、毎年必ず歳をとりいつかは必ず死ぬ。死と向き合うようになると、若いころには見えなかったことが、いいにつけ悪いにつけ、見えてくるようになる。生きることは死ぬこと。この書を読むことにより、**生きることの意義**を学生諸氏に見つけ出して欲しい。

『死体に歯あり　法歯学の現場』

鈴木和男著　徳間書店　【請求記号：498.92/Su96】

「法歯学」は主として、**個人識別**の際に用いられることが多い。歯牙硬組織は、他の組織に比べて残存している場合が多く、その治療痕や状態から識別できるからである。開業医においては、日常の診療の過程で多くの処置記録を蓄積・保有しており、その情報は確実性の高い個人識別情報であり、それに基づいて識別作業を行うことも多い。

歯は実に多岐にわたる情報を含んでおり、**年齢・性別・血液型・人種・職業・経済状態、治療した歯科医師の出身大学、左利きか右利きか、食生活の特徴、教養程度、喫煙の有無、出身地、生前の顔型**までもが、歯および顎から推測できる。

第1章は**『「法歯学」が世間に認知されるようになったのは、昭和60 年夏に起こった日航機墜落事故のときであった』**という文章から始まっている。

昭和 60 年(1985 年)8 月 12 日、37 年前のあの日を私は鮮明に記憶している。暑い夏の夕方頃だったろうか、テレビのニュースでひっきりなしに日本航空ジャンボ機が羽田から大阪を目指して離陸したのだが、レーダーから突然消えたことを伝えていた。

乗客乗員の **520 名**が乗っていた飛行機が突然消えたのである。日本中がパニックになったのを覚えている。それが翌日になって群馬県上野村の御巣鷹山に墜落したということが明らかになった。生存者はこれだけの人数が搭乗していた中でわずかに４人という、大惨事になった。

その後の遺体捜索および身元確認が非常に困難を極めた。損傷状態がひどく、外見から確認できる遺体はごくわずかであった。墜落の衝撃の凄まじさがうかがわれた。

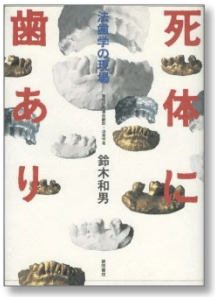
その時に身元確認において素晴らしい働きをしたのが、鈴木和男氏が率いる**「東京歯科大学法歯学教室」**のメンバーであった。

半分以上が部分遺体であり、それでも身元確認できたのは「法歯学」のお陰と言っても過言ではない。

この日航機墜落事故をうけて、身元確認において「法歯学」の重要性が認識され、日本歯科医師会・各県歯科医師会を筆頭として、地域の歯科医師会でも地元の警察署と連携をとり**「警察協力医会」**が設立され、今日では身元不明者の確認に大いに貢献していることをここに報告したい。

最後に鈴木和男氏が江戸末期に活躍した蘭学者であり医師である**「緒方洪庵先生」**の遺訓を引用していたので、ここに掲げたい。

医の世に生活するは、人の為のみ。
安逸を思わず、名利を顧みず、
唯、己を捨てて、
人を救わんことを希うべし。



～生きることは死ぬことなり～
生きる意義と目標を見つけよう！

2022 年 10 月 20 日発行
帝京科学大学附属図書館　e-mail: library@ntu.ac.jp　http://www.ntu.ac.jp/library/
千住図書館　東京都足立区千住桜木 1-11-1　TEL 03-6910-3705　FAX 03-6910-3801
東京西図書館　山梨県上野原市八ッ沢 2525　TEL 0554-63-6914　FAX 0554-63-4432